

2020年度 物流システム機器生産出荷統計 【概要版】

2021年8月

 公益社団法人
日本ロジスティクス システム協会
JAPAN INSTITUTE OF LOGISTICS SYSTEMS

 一般社団法人
日本物流システム機器協会
The Japan Institute of Material Handling

物流システム機器生産出荷統計調査委員会・委員名簿

	所 属	役 職	氏 名
委員長	早稲田大学	理工学術院 創造理工学部 経営システム工学科 教授	吉本 一穂
副委員長	村田機械(株)	専務取締役 営業推進担当	石山 敏彦
委 員	(株) I H I 物流産業 システム	営業本部 営業企画部 課長	今村 壮壱
〃	オークラ輸送機(株)	営業本部 営業企画室 営業管理グループ 係長	石原 智裕
〃	(株)オカムラ	上席執行役員 物流システム事業本部長	田尻 誠
〃	三機工業(株)	プラント設備事業本部 企画開発部 企画開発 1 課 課長	半田 邦博
〃	西部電機(株)	マテハン事業部 営業部 部長	村上 光平
〃	第一工業(株)	搬送システム本店 営業部 主任	三浦 洋
〃	(株)ダイフク	経営企画本部 広報部 参事	西山 未喜
〃	トーヨーカネツ(株)	執行役員 ソリューション事業本部 本部長補佐	國友 宏俊

(2021年8月現在、敬称略、社名五十音順)

事務局：公益社団法人日本ロジスティクスシステム協会 JILS総合研究所

I. 統計の目的

物流システム機器は生産や流通の効率化、高付加価値化に重要な役割を果たしており、我が国経済の発展のためにもその発展と成長が期待されている。そのためには、関係する企業が適切な経営判断を行えるよう、物流システム機器についての定量的で継続性のあるデータが不可欠である。

このようなことから、物流システム機器の生産出荷状況を定量的かつ継続的に把握することを目的として、標記の調査を実施するものである。なお、本調査は「物流システム機器推進部会」（旧：物流システム機器懇談会）が1985年度から実施している統計を実質的に継承しているが、2007年度調査より新たに調査委員会を設置し、一般社団法人日本物流システム機器協会・統計部会の協力を得て、調査内容の検討・分析を行っている。

II. 調査対象と期間

国内主要物流システム機器メーカーを対象とし、2020年4月から2021年3月までの実績を調査集計したものである。

業種別調査は、調査対象25機種について、機種別に売上件数ベースで主要出荷先上位10業種を選択し、金額構成比を記入する方式としている。各社の各機種の売上金額に金額構成比を乗じて、各機種および小計別に、売上金額の上位10業種および金額のトータルを、グラフにまとめている。

97年度よりフォークリフト等、産業車両分野は一般社団法人日本産業車両協会の調査による統計を別枠で発表している。また、2006年度より、一般社団法人日本パレット協会が調査を実施しているパレット（木製パレット・金属製パレット・プラスチック製パレット・シートパレット・紙製パレットの合計）の生産数量および出荷額をあわせて別枠で掲載している。

2020年度フォークリフトは国内販売実績80,273台で、国内販売向け金額は2,302億9,600万円である。輸出販売実績は26,531台である（一般社団法人日本産業車両協会において、輸出向け販売金額は現在調査していない）。

2020年度パレットは、生産数量が前年比13.6%減少の6,163万枚で、出荷額は1,696億円となっている。

1. アンケート実施状況

- ・実施日程：2021年5月14日発送～6月18日〆切

2. 調査範囲

- ・製造業における組立ライン、ホテル、病院、図書館、オフィス等通常の物流領域以外への出荷を含める（自動車の製造ラインも含む）。
 - ・増設・改造等（工事を伴うサービス業務）についても、出荷データに含める。
 - ・クリーンルーム向けを含む（クリーンルームの定義は次項参照）。
- ※増設は、基数、件数、売上金額を含む。
- ※改造は、売上金額のみ計上し基数、件数は含まない。

3. クリーンルームの定義

- 1) クラス10,000以下
- 2) 該当業種：半導体、FPD関係、太陽電池、HDD、メディアなど
- 3) 医療・食品業界向けは、クリーンルーム向け販売には含めず、エンドユーザーと売買したものに含める(一般物流とする)

4. 調査範囲について

2003年度(調査対象年)より、機器メーカー各社で取扱高が増えたクリーンルーム向けの調査を開始しているが、2004年度までの定義は「クラス10,000以下で半導体を除く」としていた。また、調査範囲を2005年度(調査対象年)より変更しており、2004年度までは「製造業における組み立てライン、ホテル、病院、図書館、オフィス等、通常の物流領域以外への出荷は含まない」としていた。また、2007年度まではパレットおよびロールボックスパレットを調査対象に含めていた。

Ⅲ. 調査対象機種

2020年度調査より、6「無軌道台車システム」の仕様によって項目を細分化し、6-1 無軌道台車システム(パレット)、および6-2 無軌道台車システム(パレット以外)とした。

図表1 調査対象機種

1・2	パレット用自動倉庫 (ビル式・ユニット式)	<ul style="list-style-type: none">・一般的にパレット積みされユニット化された荷を、多段高層の棚及びスタッカークレーン等を使用して自動的に搬入・搬送・搬出できる保管庫をいう。・また、荷を直接ハンドリングするパレットレスのものも含む(ビール樽、新聞用紙など)。
3	バケット用自動倉庫 (ユニット式)	<ul style="list-style-type: none">・通箱、バケット、カートンを単位としたもの。
4	天井走行台車	<ul style="list-style-type: none">・天井空間に設置し、軌道ないし台車に駆動力を持つもの。・基数は台車の数量とする。金額には軌道・制御装置を含む。
5	有軌道台車システム	<ul style="list-style-type: none">・軌道ないし台車に駆動力を持つもの。・基数は台車の数量とする。金額には軌道・制御装置を含む。
6-1	無軌道台車システム (パレット)	<ul style="list-style-type: none">・各種センサーにより誘導される無人搬送台車のうち、パレットの積載が可能なもの。・基数は台車の数量とする。金額には制御装置を含む。
6-2	無軌道台車システム (パレット以外)	<ul style="list-style-type: none">・各種センサーにより誘導される無人搬送台車のうち、パレット以外の積載が可能なもの。・基数は台車の数量とする。金額には制御装置を含む。
7	仕分機	<ul style="list-style-type: none">・自動にて荷の仕分けを行うもの。・構成範囲はインダクション部(誘導部、商品投入部)からソータ本体、仕分けシュートまで(リサークルラインはケース搬送用コンベヤとする)。・基数は、台数とする。

図表1 調査対象機種（つづき）

8	パレット搬送用コンベヤ	<ul style="list-style-type: none"> ・パレットを被搬送物とするコンベヤ。 ・対象範囲：パレットを搬送するコンベヤすべてを含む、及びコンベヤ本体を制御する本体制御を含む。
9	ケース搬送用コンベヤ	<ul style="list-style-type: none"> ・バケット及びカートンケースを対象としたコンベヤ。 ただし、石炭、鉱石、泥等のバルクを搬送するものは除く。 ・対象範囲：ケースを搬送するコンベヤすべてを含む、及びコンベヤ本体を制御する本体制御を含む。
10	ハンガー式コンベヤ	<ul style="list-style-type: none"> ・天井空間に設置し、ハンガー商品を吊下げて搬送するコンベヤ。 ・対象範囲：物品を吊り下げて搬送するコンベヤで、本体・装置・制御全体を含む。
11	デジタルピッキング表示器	<ul style="list-style-type: none"> ・コンピュータの指示によりピッキングする品物の位置と数量を表示する装置。 ・対象範囲：表示器を取り付けている流動棚、中軽量棚、コンベヤは含まない。ただし、回転棚に取り付けているピッキング表示器は回転棚に含む（バーチカル・水平共）。 ・制御関係は本体制御を含み、指示するコンピュータはコンピュータに集計する。
12	ピッキング台車	<ul style="list-style-type: none"> ・ピッキングする品物の位置と数量を表示する装置を取り付けているピッキング用の台車。 ・対象範囲：ピッキング台車本体及びコンソールと、付属する部品（充電器等）も含む。
13・14	回転棚（垂直式・水平式）	<ul style="list-style-type: none"> ・荷の軽重、制御レベルを問わない。垂直、水平両方式の回転する棚。 ・基数は、台数とする。
15・16	移動棚（電動式・手動式）	<ul style="list-style-type: none"> ・電動、手動にて移動する機構を備えた棚。 ・基数は、台数とする。
17	重量棚	<ul style="list-style-type: none"> ・パレット単位のユニットロードを格納する棚（ネスティングパレットを含む）。
18	中軽量棚	<ul style="list-style-type: none"> ・カートン単位、またはバケット単位などを格納する棚で、1棚当りの重量が約500kg以下のもの。
19	流動棚	<ul style="list-style-type: none"> ・カートン単位またはバケット単位のもの、傾斜の付いた棚に置き、前面での取り出しを容易にさせたもの。
20	パレタイザ／デパレタイザ	<ul style="list-style-type: none"> ・バケット、カートンケース、袋物等の物品を自動にてパレット上に整列集積（或いは分離）する装置。 ・機械式、ロボット式のいずれの方式も含む。
21	パレット搬送用垂直搬送機	<ul style="list-style-type: none"> ・複数の搬入出装置を備え、連続で搬送物を垂直搬送する装置（パレットを被搬送物とする）。 ・ただし、エレベータ、小荷物専用昇降機は含まない。
22	ケース・ピース搬送用垂直搬送機	<ul style="list-style-type: none"> ・複数の搬入出装置を備え、連続で搬送物を垂直搬送する装置（バケット及びカートンケースを対象とする）。 ・ただし、エレベータ、小荷物専用昇降機は含まない。

図表1 調査対象機種（つづき）

23・24	コンピュータ (ハード・ソフト)	・物流機器の情報処理と在庫監視を同期化して行うコンピュータシステムのハード・ソフト。
25	WMS	・物流センター・倉庫等で入荷から出荷までの一連の作業を支援するコンピュータシステム(ハード・ソフト)。 ・対象範囲：物流設備の有無、物流設備との接続の有無を問わない。
26	その他	・以上1～25の分類に該当しないもの。

IV. 調査事項

前項であげた各々の機種につき、A売上件数、B基数、C総売上金額、D海外向金額を調査しており、数値の重複を避けるため、以下の区分で調査を行なっている。

M：同業他社向けに売買したもの

U1：エンドユーザー、商社などと売買したもの

U2：ゼネコン・エンジニアリング・コンピュータ会社と売買したもの

C：クリーンルーム向けに売買したもの

C総売上金額、D海外向金額の数値はいずれも売上ベースであり、売上件数に対応する据付、調整工事を含む全金額とする。ビル式の場合には土木、建築工事の金額を含むものとする（建築の範囲：ラックに付属する屋根・壁）。D海外向金額はC総売上金額の内数である。なお、売上件数については、例えば同一顧客企業に2回以上納品した場合、部品だけを納品した場合等、回答企業によりカウントの方法が異なる回答が含まれている可能性があり、注意が必要である。

業種別調査は、売上金額を出荷先業種別に調査したものである。業種別調査は、下記の業種分類により調査を行っている。ただし、業種別調査は出荷先上位10業種のみでの調査であることに加え、業種別の回答が得られない企業があることから、業種別売上高の総計が総売上金額に一致しない場合がある。

図表2 業種調査の業種分類

業種分類	大分類	業種分類	大分類
1 建設	8 その他	191 小売業	5 卸・小売
2 食料品製造	3 食品・医薬等	192 通信販売	
3 繊維・衣服	4 その他製造	20 自動車販売	8 その他
4 パルプ・紙加工		21 自動車整備サービス	
5 出版・印刷		22 サービス業	
6 化学		23 倉庫業	6 倉庫・運輸
7 医薬・化粧品・塗料	3 食品・医薬等	24 陸運	
8 石油・ゴム製品	4 その他製造	25 海運	
9 ガラス・窯業・土石製品		26 空運	
10 鉄鋼		27 鉄道	
11 非鉄・金属製品		28 通信	8 その他
12 一般機械器具		29 電気・ガス・水道	
13 電気機械器具	1 電機・精密機器	30 官庁・学校	7 官庁・図書館等
14 自動車/輸送用機械器具	2 輸送機器・部品	31 団体・組合(JA等)	
15 精密機械器具	1 電機・精密機器	32 ホテル	8 その他
16 自動車部品製造	2 輸送機器・部品	33 病院	7 官庁・図書館等
17 その他製造	4 その他製造	34 図書館	
18 卸売業(商社含)	5 卸・小売	35 その他	8 その他

V. 全体の推移

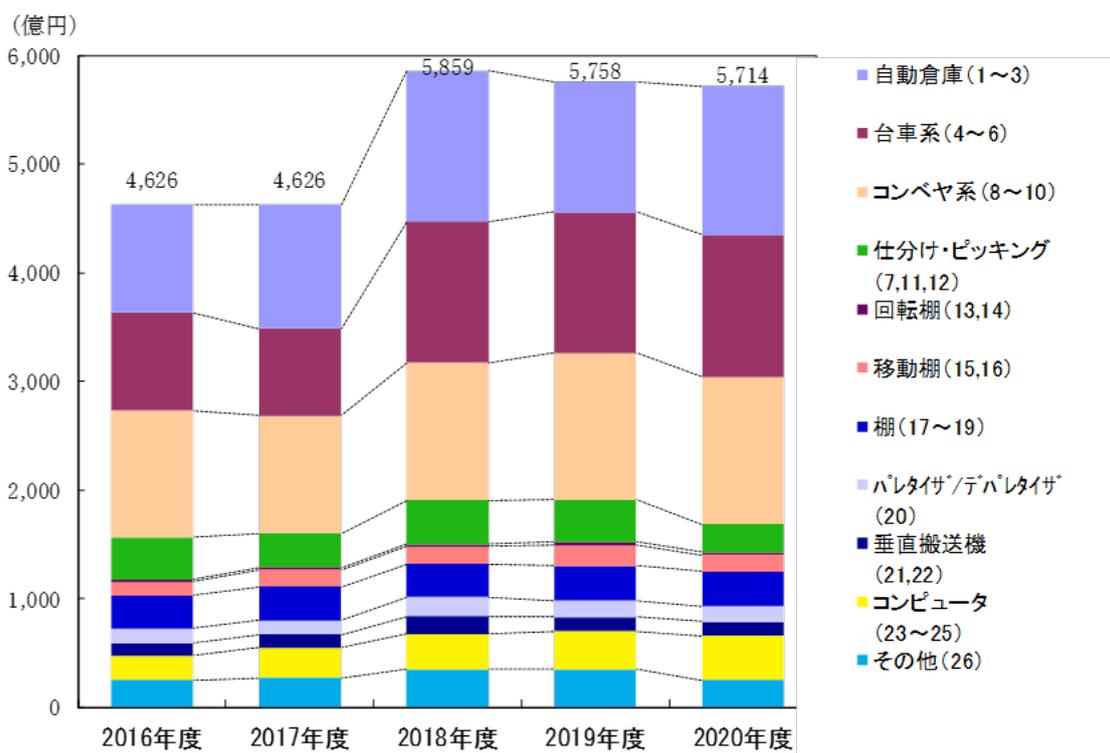
集計の結果、2020年度の物流システム機器の総売上金額は、2019年度の575,756百万円から571,403百万円へと、ほぼ横ばい（△0.8%）の推移となった（**図表3**）。また、売上件数（p45～46）は2019年度の131,092件から138,262件へと増加した。

総売上金額は、3年連続で500,000百万円を超える金額となり、引き続き高水準を示す結果となった。ここ数年みられた、受注額と出荷額の金額差異が少なくなりつつあることをふまえると、メーカー各社の供給能力が整い、拡大する受注案件への着工・出荷がなされつつあるものと推察される。

売上金額を領域別に見ると、海外向けは昨年度よりも減少し（p30参照）、クリーンルーム向けも6.1%の減少となった。業種別に見ると、「電機・精密機器」に対する売上の比率が依然として高水準となっている一方、「食品・医薬等」、「卸・小売」といった業種の売上比率も昨年度より増加している（**図表5**）。

なお、2013年度調査から業種分類を変更しており、従来「小売業」の内数であった「通信販売」を新たに業種分類として独立させ、調査している。2020年度の「通信販売」の売上金額は19,864百万円となり、これは総売上金額の約3.5%である。

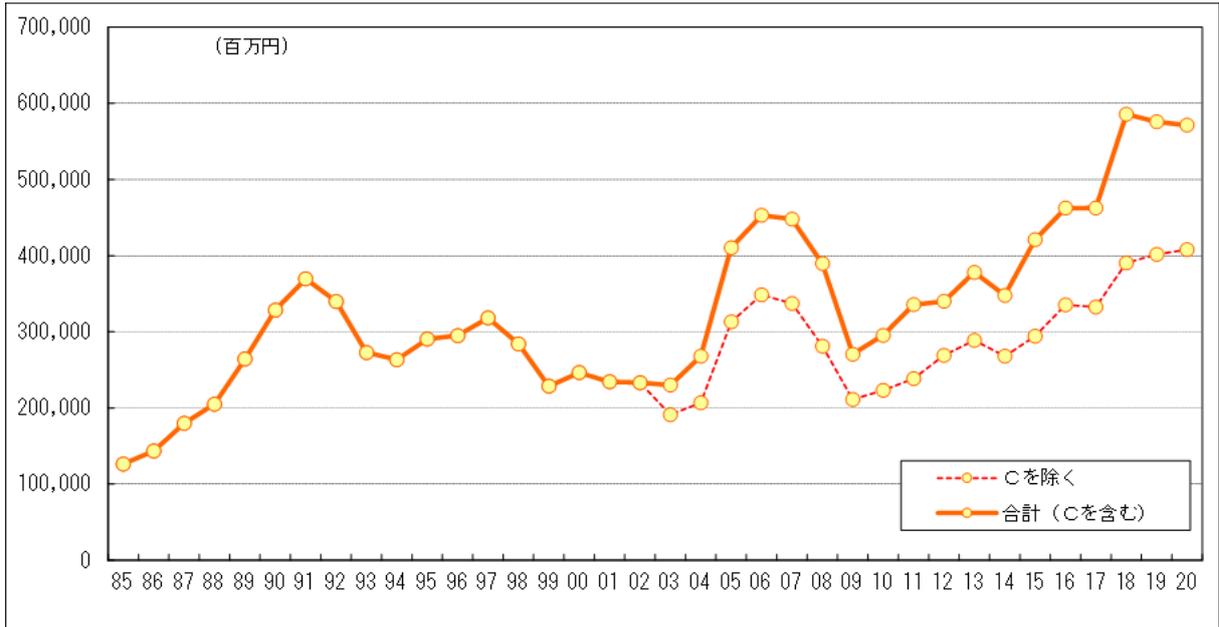
図表3 総売上金額の推移



金額	462,594	462,643	585,870	575,756	571,403	(百万円)
前年比	110	100	127	98	99	(%)

注：凡例の数字は、図表1の番号に対応

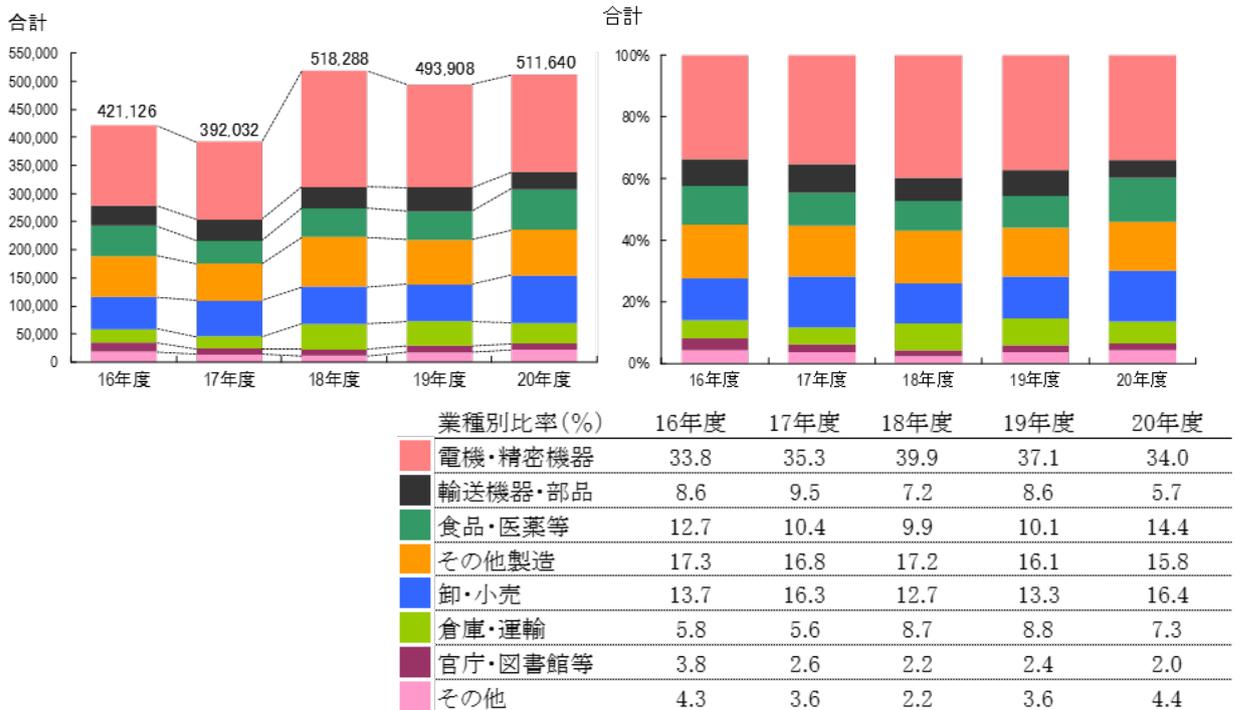
図表4 物流システム機器の総売上高（長期時系列）



注：2003年度より、クリーンルーム向け（図中のC）を調査対象に加えており、それ以前との比較のため、Cを除いたグラフも掲載した。

なお、調査範囲はそれ以外にも変更を行っており、II. 4項を参照のこと。

図表5 業種大分類別売上高の推移
（左：金額ベース／右：構成比）



注1：業種分類については図表2を参照のこと。

2：売上高の業種別構成比の記入がない回答があるため、総売上金額の合計と一致しない。

VI. 各機種の動向

■自動倉庫（1～3）

自動倉庫全体の売上金額を見ると、前年度の120,184百万円から2020年度は136,437百万円へと増加（13.5%）した。機種別に見ると、パレット用自動倉庫（ユニット式）の売上金額が、51,476百万円から60,162百万円へ増加（16.9%）となった。クリーンルーム向けについては、37,068百万円から33,386百万円へ減少（△9.9%）する結果となった。基数（パレット数）は1,870千パレットから2,307千パレットへ増加（23.4%）している。

■台車系（4～6）

台車系は、2020年度については、129,790百万円から131,088百万円と、ほぼ横ばい（1.0%）の推移となった。基数についても、11,070台から11,359台と、ほぼ横ばい（2.6%）となった。

機種別にみると、天井走行台車が103,547百万円から101,617百万円へと減少（△1.9%）、有軌道台車システムが11,434百万円から11,776百万円へ増加（3.0%）、無軌道台車システムは14,809百万円から17,695百万円へ増加（19.5%）という結果となった。

■コンベヤ系（8～10）

コンベヤ系の売上高は、2017年度以降増加の傾向にあり、2020年度は134,017百万円から135,612百万円へと微増（1.2%）となった。

機種別には、ケース搬送用コンベヤが73,904百万円から90,893百万円へ増加（23.0%）した一方、パレット搬送用コンベヤについては、53,731百万円から38,341百万円へ減少（△28.6%）、ハンガー式コンベヤは7,192百万円から6,378百万円へ減少（△11.3%）した。

なおコンベヤ系は、従来よりクリーンルーム向けの売上金額の割合が小さく、大勢には影響を与えない傾向にある。

■仕分け・ピッキング系（7,11,12）

仕分け・ピッキング系は、物流システム機器の中では好不況の影響が比較的少なく、他の機種と比べると例年売上金額の変動は小さかったが、2020年度は前年度の38,560百万円から25,327百万円へと大きく減少（△34.3%）している。

全体の過半以上は仕分機が占めているなか、仕分機の売上金額は、31,732百万円から18,840百万円へ大幅に減少（△40.6%）、基数についても、3,854台から3,067台へと減少（△20.4%）している。なお、仕分機の主たるユーザは卸・小売、倉庫・運輸等の内需関連産業であり、それら業種の売上比率が、全体の半数以上を占めている。またデジタルピッキング表示器についても、売上金額が6,085百万円から5,758百万円へと減少（△5.4%）している。

■回転棚・移動棚（13～16）

回転棚・移動棚の売上高は、近年は安定的に推移していたが、2020年度は前年度の22,163百万円から17,779百万円へと減少（△19.8%）した。

機種別にみると、売上金額の大半（85.9%）を移動棚が占めている。移動棚の売上は電動式が12,291百万円から10,527百万円へ減少（△14.4%）、手動式は、6,593百万円から4,680百万円へと減少（△29.0%）した。回転棚（垂直式）は921百万円から1,010百万円へと増加（9.7%）した一方で、回転棚（水平式）については、2,358百万円から1,562百万円へと大きく減少（△33.8%）した。

なお、本調査の調査対象はオフィスなど通常の物流以外の領域を含んでいるが、たとえば移動棚（手動式）では「官庁・図書館等」向けが約4割を占めている。

■棚（17～19）

棚は、重量棚、中軽量棚、流動棚の3機種からなる。売上金額は前年度の32,085百万円に対して、2020年度は32,206百万円と、ほぼ横ばいの結果となった。内訳として、重量棚が9,160百万円から9,433百万円に微増（3.0%）、中軽量棚が21,817百万円から22,234円に微増（1.9%）している。また流動棚については、1,108百万円から539百万円へと約半減（51.4%）した。

なお棚の出荷先は、例年、卸・小売、官庁・図書館等が多い傾向にあり、2020年度は流動棚において、その割合が増加している。

■パレタイザ/デパレタイザ（20）

パレタイザ/デパレタイザは、2009年度の一時的減少を除くと、これまで景気の影響を大きく受けず長期的に安定的な水準を維持している。2020年度は、前年度の売上高15,058百万円から14,152百万円へと減少（△6.0%）し、基数についても1,176台から1,054台へと減少（△10.4%）している。

業種別調査の結果によると、出荷先業種は「食品・医薬等」と「その他製造」の2業種で大半を占める。

■垂直搬送機（21,22）

垂直搬送機は、売上金額が13,106百万円から12,945百万円とほぼ横ばい（△1.2%）で推移している。

機種別にみると、パレット搬送用垂直搬送機は9,271百万円から10,250百万円に増加（10.6%）、ケース・ピース搬送用垂直搬送機は3,835百万円から2,695百万円へと減少（△29.7%）している。

業種別に見ると、ケース・ピース搬送用垂直搬送機の出荷先は、「卸・小売」、「その他製造」向けで5割以上（54.7%）を占めている。パレット搬送用垂直搬送機は倉庫・運輸が4割程度（41.5%）を占める。

■コンピュータ（23～25）

コンピュータは、物流システム機器の情報処理や在庫管理を行う、一般的には制御系の機能を含むコンピュータソフト・ハードと、WMS（倉庫管理システム）からなる。

このうちWMSについては、本統計が主として物流システム機器のメーカー（エンジニアリング会社を含む）を調査対象としており、カバレッジが充分でない点に留意が必要である。特に、大手情報システムベンダーでは、WMSの機能を含む物流情報システムを個別に開発しているケースが多いと思われるが、上記の理由から本調査ではカバーできていない。

コンピュータ全体の売上金額をみると、2020年度は、前年度の34,856百万円から40,744百万円へと増加（16.9%）した。機種別に見ると、コンピュータ（ハード）が10,120百万円から10,258百万円とほぼ横ばい（1.4%）、コンピュータ（ソフト）は22,747百万円から25,850百万円へと増加（13.7%）した。なお、コンピュータは物流システム機器の制御等に利用されるものが多く、他の機種の出荷傾向に影響を受ける。

VI. 海外の市場動向

海外向け売上金額は、2019年度の187,276百万円から2020年度は169,691百万円へと減少（△9.4%）した。海外向けは従来クリーンルームの割合が高く、その影響を強く受ける傾向がある。これに関し、2020年度については、クリーンルーム向けの海外売上高は140,109百万円から139,858百万円とほぼ横ばい（△0.2%）の推移となっている一方で、クリーンルーム以外の売上高は47,472百万円から29,833百万円へと減少（△37.2%）する結果となった。

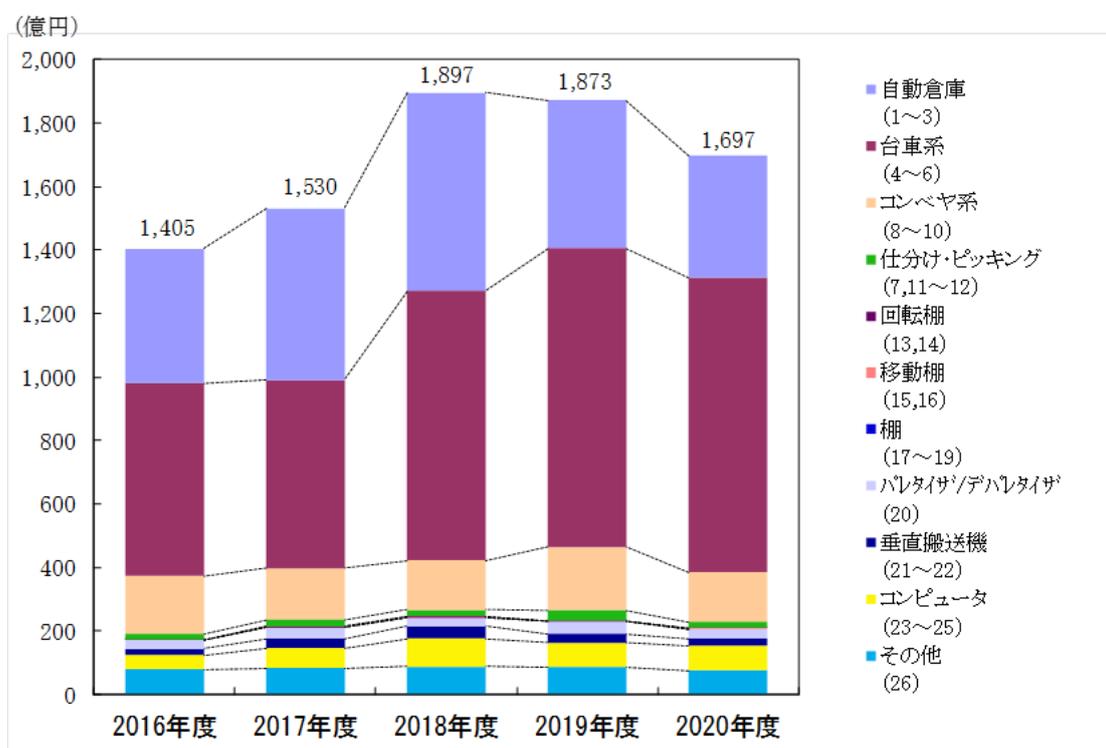
海外向け売上金額では、台車系が全体の54.8%、自動倉庫が22.6%、コンベヤ系が9.3%、を占め、この3機種で8割以上（86.6%）を占める。

この3機種のうち、台車系は94,214百万円から92,893百万円へ微減（△1.4%）、自動倉庫は46,671百万円から38,417百万円に減少（△17.7%）、コンベヤ系は19,837百万円から15,672百万円に減少（△21.0%）する結果となった。

なお、台車系の海外向け金額は、90%以上がクリーンルーム向けで占められている。

なお、クリーンルーム向けの売上金額は、海外向け総売上に対して82.4%を占めている。

図表6 海外向け売上金額の推移



金額	140,463	153,025	189,663	187,276	169,691	(百万円)
前年比	103	109	124	99	91	(%)

VI. 最後に

以上で見てきたとおり、2020年度の総売上金額は3年連続で高い水準を維持し、5,000億円を超える結果となった。

新型コロナ禍において、世界経済ならびに日本経済へ引き続き大きな影響が続いているなか、ロジスティクス・物流における労働力不足は、物量減により一時的に緩和の傾向があるものの、依然として大きな課題である。新型コロナ禍における我が国の経済状況と景気の推移が本調査に与える影響については、注視する必要がある。

なお本調査では、四半期毎の受注額も調査を行っている。受注調査では、売上高ベースで出荷調査の85%程度に相当する企業の回答を得ている。受注は出荷の先行指標であるが、2020年度の出荷額は、2019年度の受注金額（612,170百万円）の93.3%に相当し、受注金額と次年度の出荷額は、おおよそ近似していると考えられる。

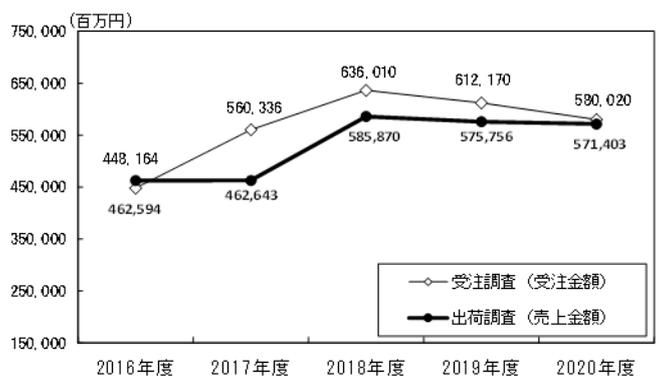
2020年度の受注金額は約5,800億円と、2019年度と比較すると減少こそしたものの（**図表8-16**）、依然として高水準にある。一方で、同一年度の受注額と出荷額の差異が年々少なくなりつつある傾向をふまえると、2021年度の出荷額は減少することが予想される。次年度以降も、金額の変動については、新型コロナの影響を踏まえ動向を注視したい。

我が国の製造業は、世界規模での新型コロナの影響をはじめ、米国や中国といった大国の政治・経済の不安定要素、アジア各国との競争激化など、様々な課題を抱えている。また国内では、SDGs各目標の達成に向けた取り組みが進むなか、日本政府は先日、脱炭素社会の実現に向けて2030年度までに温室効果ガス排出量を2013年度比46%削減する、新たな目標を定めた。また近年では、大規模自然災害をはじめとしたリスクマネジメントや、東京オリンピック・パラリンピック後の景気変動への対応など、新たな課題も発生しつつある。このような状況において、ロジスティクス・物流は今後、より重要な役割を担うであろうことが予想される。

今後、物流現場の省力化・自動化を実現する物流システム機器への重要性はさらに増していくものと考えられる。物流システム機器業界として、産業界の持続的な発展に貢献するためにも、さらなる技術革新と標準化を推進し、安全で環境負荷の少ない物流システム機器を提供することが重要である。

図表7 物流システム機器の受注額との比較（参考）

グラフは、各年度における「売上金額」と「受注金額」を表す。大型の機器等では、受注と売上（出荷）には1年ないしそれ以上のタイムラグが生じる。そのため、受注は売上（出荷）の先行指標となる。



出典：物流システム機器の受注統計整備に関する調査

注：本調査の回答企業は、売上高ベースで「出荷統計調査」の85%程度に限られる。

以上

2020年度 物流システム機器 生産出荷統計

M: 同業他社と売買したもの
 U1: エンドユーザー、商社などと売買したもの
 U2: ゼネコン・エンジニアリング・コンピュータ会社と売買したもの
 C: クリーンルーム向けに売買したもの
 計: U1+U2+C

設備機器名	A 売上台数	B 基数		C 売上金額 (百万円)	D 海外向金額 (百万円)	
		(台)	(パレット)			
1 自動倉庫 (1~3) <small>1. パレット用自動倉庫(ビル式) 2. パレット用自動倉庫(ユニット式) 3. パレット用自動倉庫(ユニット式)</small>	M	54	129	20,600	3,864	80
	U1	1,716	4,540	2,063,274	99,895	8,101
	U2	90	110	134,259	3,156	462
	C	135	622	109,803	33,386	29,854
	計	1,941	5,272	2,307,336	136,437	38,417
2 台車系 (4~6) <small>4. 天井走行台車 5. 有軌道台車システム 6-1. 無軌道台車システム (パレット) 6-2. 無軌道台車システム (パレット以外)</small>	M	101	92		366	0
	U1	2,274	2,174		30,476	6,781
	U2	62	40		606	160
	C	258	9,145		100,006	85,952
	計	2,594	11,359		131,088	92,893
3 コンベヤ系 (8~10) <small>8. パレット搬送用コンベヤ 9. ケース搬送用コンベヤ 10. ハンガー式コンベヤ</small>	M	1,426			18,719	932
	U1	20,893			118,727	5,380
	U2	310			3,480	154
	C	481			13,405	10,138
	計	21,684			135,612	15,672
4 仕分機 (7) <small>7. 仕分機</small>	M	212	166		2,031	44
	U1	3,956	2,907		16,612	857
	U2	70	134		1,978	57
	C	16	26		250	27
	計	4,042	3,067		18,840	941
5 ピッキング系 (11~12) <small>11. デジタルピッキング表示器 12. ピッキング台車</small>	M	770	0		624	0
	U1	713	16		6,474	910
	U2	1	0		13	0
	C	0	0		0	0
	計	714	16		6,487	910
6 回転棚 (13~14) <small>13. 回転棚 (垂直式) 14. 回転棚 (水平式)</small>	M	30	35		275	0
	U1	690	159		2,476	22
	U2	8	5		96	0
	C	0	0		0	0
	計	698	164		2,572	22
7 移動棚 (15~16) <small>15. 移動棚 (電動式) 16. 移動棚 (手動式)</small>	M	39	183		1,582	0
	U1	1,590	5,355		14,689	216
	U2	33	175		518	0
	C	0	0		0	0
	計	1,623	5,530		15,207	216
8 棚 (17~19) <small>17. 重量棚 18. 中軽量棚 19. 流動棚</small>	M	2,974			2,129	0
	U1	84,340			32,035	0
	U2	287			171	0
	C	0			0	0
	計	84,627			32,206	0
9 パレタイザ/デパレタイザ (20) <small>20. パレタイザ/デパレタイザ</small>	M	22	46		2,162	0
	U1	294	1,039		13,506	3,017
	U2	15	15		646	0
	C	0	0		0	0
	計	309	1,054		14,152	3,017
10 垂直搬送機 (21~22) <small>21. パレット搬送用垂直搬送機 22. ケース・ピース搬送用垂直搬送機</small>	M	120	348		2,203	198
	U1	314	609		8,720	822
	U2	117	260		2,875	17
	C	15	36		1,350	1,350
	計	446	905		12,945	2,189
11 コンピュータ (23~25) <small>23. コンピュータ (ハード) 24. コンピュータ (ソフト) 25. WMS</small>	M	43			323	0
	U1	3,258			31,428	721
	U2	58			506	0
	C	218			8,810	7,210
	計	3,534			40,744	7,931
12 その他 (26) <small>26. その他</small>	M	78			152	0
	U1	15,900			18,557	2,156
	U2	145			202	0
	C	5			6,354	5,327
	計	16,050			25,113	7,483
13 合計 (1~26)	M	5,869	999		34,430	1,254
	U1	135,938	16,799		393,595	28,983
	U2	1,196	739		14,247	850
	C	1,128	9,829		163,561	139,858
	計	138,262	27,367		571,403	169,691

物流システム機器生産出荷統計表 総売上金額の推移

設備機器名 ()は集計対象機器(小分類)の番号		2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度
		自動倉庫 (1~3)	M	909	2,425	2,431
	C	37,466	46,966	58,084	37,068	33,386
	U1+U2+C	99,667	114,392	139,015	120,184	136,437
台車系 (4~6)	M	1,840	1,349	1,862	1,460	366
	C	69,251	58,017	97,961	103,394	100,006
	U1+U2+C	89,902	80,105	129,899	129,790	131,088
コンベヤ系 (8~10)	M	6,449	11,700	8,175	10,810	18,719
	C	8,642	8,814	11,497	13,302	13,405
	U1+U2+C	116,741	108,295	126,808	134,827	135,612
仕分機 (7)	M	1,577	6,379	4,436	4,140	2,031
	C	286	321	336	293	250
	U1+U2+C	29,355	24,413	33,108	31,732	18,840
ピッキング系 (11, 12)	M	589	610	553	410	624
	C	0	0	0	0	0
	U1+U2+C	9,239	7,012	7,108	6,828	6,487
回転棚 (13, 14)	M	231	416	563	331	275
	C	0	0	0	0	0
	U1+U2+C	2,236	1,945	2,190	3,279	2,572
移動棚 (15, 16)	M	533	732	2,599	476	1,582
	C	0	0	0	0	0
	U1+U2+C	12,620	15,737	15,888	18,884	15,207
棚 (17~19)	M	3,754	4,499	4,799	2,868	2,129
	C	0	0	0	0	0
	U1+U2+C	30,330	30,833	30,653	32,085	32,206
パレタイザ/デパレタイザ (20)	M	505	214	1,050	372	2,162
	C	792	0	3,420	965	0
	U1+U2+C	13,619	13,291	17,454	15,058	14,152
垂直搬送機 (21, 22)	M	2,340	1,851	2,102	2,003	2,203
	C	1,366	2,569	3,782	2,545	1,350
	U1+U2+C	11,314	11,823	16,471	13,106	12,945
コンピュータ (23~25)	M	770	2,561	2,780	2,686	323
	C	3,796	6,403	9,477	8,615	8,810
	U1+U2+C	22,580	27,922	32,276	34,856	40,744
その他 (26)	M	269	809	1,463	335	152
	C	5,786	6,949	10,893	7,948	6,354
	U1+U2+C	24,991	26,874	35,000	35,127	25,113
合計 (1~26)	M	19,766	33,545	32,813	28,080	34,430
	C	127,385	130,039	195,450	174,130	163,561
	U1+U2+C	462,594	462,643	585,870	575,756	571,403
※ フォークリフト		213,928	221,602	239,393	234,884	230,296
※ パレット		194,234	178,811	196,885	206,772	169,610

M：同業他社向けに売買したもの

U1：エンドユーザー、商社などと売買したもの

U2：ゼネコン・エンジニアリング・コンピュータ会社と売買したもの

C：クリーンルーム向けに売買したもの

本概要版には、機器大分類別の売上金額、海外への売上金額といった概要データを記載しています。機器小分類別の売上金額、機器別・業種別の売上金額等の詳細データは、回答企業に配布している詳細版報告書（約70ページ）に収録しています。

2020年度 物流システム機器生産出荷統計【概要版】

2021年8月発行

公益社団法人 日本ロジスティクスシステム協会

〒105-0022 東京都港区海岸1-15-1 スズエベイディアム

ホームページ <https://www1.logistics.or.jp/>

禁無断転載